魔法のプロジェクト　FY２３　活動報告書

報告者氏名：三宅　泰治　　所属：香川大学教育学部附属特別支援学校　　記録日：2024年　2月　27日
キーワード：自己理解、得意なことを活かす、コミュニケーション、進路指導

【対象生徒の情報】
・学年：高等部３年　Ｅ女
・障害名：軽度知的障害、注意欠陥多動性障害（AD/HD）
・障害と困難の内容
　感情表現が苦手で不適切な発言や態度で表現することが多い。気分のむらが大きく、活動に消極的なことが多い。アパレル関連の職種への就労を希望しているが、態度の不良から就職や雇用の継続に困難が予想される。

【活動目的】
・当初のねらい
　本生徒の学習に対する姿勢や指導者からの働き掛けの在り方によって、学習意欲が極端に下がる傾向にあったため、指導場面を職業国語、生活単元学習、総合的な探究の時間に設定し、以下の内容に取り組むことにした。
　（１）【就職に必要なスキル】
　　現場実習や卒業後の職業生活を見越して、必要な情報を選択したり、メモした情報を確認したりするスキルを身に付け、希望するアパレル関連の職種への就労を実現させる。
　（２）【望ましい人間関係】
　　周りの生徒の活動の様子を見ながら、適切な言葉掛けや意見交換ができるとともに、他者の意見を受け入れられるようにする。
　（３）【自己理解と表出】
　　自分の得意なこと、苦手なことが分かり、適切な支援を選択し、望ましい自己表現の方法と積極的な行動を増やす。

・実施期間
　2023年５月～2024年２月
・実施者
　三宅　泰治
・実施者と対象生徒の関係
　対象生徒の担任

【活動内容と対象生徒の変化】
・対象生徒の事前の状況
　社会性とコミュニケーション
　　指導者との挨拶や返事のとき、相手の方に視線を向けて適切にできないことが多い。衝動的な行動が見られ、自分の意見と違うと思ったことは受け入れにくい。感情や思いを言語化することが苦手で、相手に伝えづらいため、短絡的になる。また、自分の意図が伝わらないとイライラしてしまい、詳細を伝えきれずに途中でやめてしまうことがある。

感情表現と SNS

気分がのらない時に授業中や休み時間に否定的な発言をし、周囲にも影響を与える。気分のむらが大きく、机に突っ伏して寝たり、前の席の生徒とネガティブな内容のこそこそ話を延々したりすることが多い。また、鬱憤を晴らす内容の SNS 投稿があり、SNS でつながっている友達への牽制の意味が込められているように見える。

外見と感覚過敏

学校で推奨されるスカートの丈やヘアスタイル、冬場の防寒、ピアスなど、担任や学部の指導者に相談なく、自分なりの着こなしをするため、身なりに関する注意を受けることが多い。感覚過敏の傾向があり、長袖やタイツなど特定の服装が苦手で、体操服のジャージの上着や長ズボンを着たがらない。

自己表現と行動

自分がやりたいことに対しては自己管理ができ、自発的に時間を作って取り組むが、苦手なことは避ける傾向があり、失敗や弱点を他人に見せたくない。自分の捉え方を優先してしまい、助言を受け入れにくいが、イメージができたことに対しては素直に受け入れることもある。見通しがもてると自分から進んで行動するが、自分の判断で始めたりやめたりすることも多い。

公の場とプレッシャー

大勢の前で指名されたり、強制されたりすることを嫌がる。縛られることに対して拒否感をもつことがある。大勢の前で名指されて話を振られたり、冗談を言われたり（いじられたり）することに嫌悪感をもつことが多い。苦手なことに対する警戒心が非常に強く、失敗するかもしれないと感じたことは、いろいろな理由をつけて回避しようとする。

その他の情報

自宅では、常にスマートフォンを携行し、LINE や Instagram、TikTok などの SNS を長時間見ている。

タブレット端末やスマートフォンの操作は得意で、指導者が説明した操作はすぐに理解し、操作することができる。PC のワープロソフトでローマ字入力ができ、全商ビジネス文書実務検定 3 級を取得。

高等部入学後、両膝の治療を継続しており、高等部２年次に膝の手術・入院等の治療を経験している。

・活動の具体的内容

1.　実施時期と主な活動内容

時期	主な活動内容
５月	職業国語 （1）-① 手書きメモとデジタルメモの併用
６月	前期現場実習（６月１日～６月 14 日）
７月	校外学習 （1）-② 校外学習のスケジュール管理、道順の確認 （2）-① 他の生徒の示範として カヌー教室**〈エピソード１〉**
８月	膝手術・入院
９月	第１回香川大学作業販売 （2）-② 指導者的役割

	後期現場実習に向けて**〈エピソード２〉**
10 月	後期現場実習（10 月 12 日～11 月２日）
11 月	後期現場実習後の保護者面談**〈エピソード３〉** ふれあい祭り（学校祭） （１）-③ レジ対応
12 月 １月	冬休みの思い出発表 （３）-① 伝わりやすい表現 第２回香川大学作業販売に向けて**〈エピソード４〉** （３）-② 居心地の良さの共有
２月	第２回香川大学作業販売**〈エピソード５〉** 卒業に向けて （３）-③先生方へのメッセージビデオ

2. 実践活動

（１）【就職に必要なスキル】

① （１）-① 手書きメモとデジタルメモの併用

「アシストガイド」

ア. 活動の具体的内容

使用アプリ：「アシストガイド」

実施時期：５月週２回の職業国語の時間

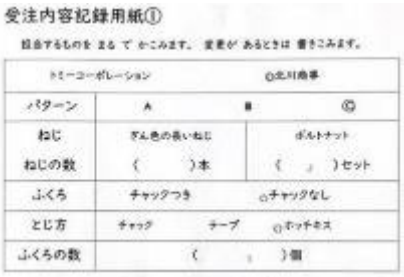
前期現場実習前の正確に作業を進めようとする意識向上の観点から、架空業者から受注を受けた製品の業者別製品分類パターン表や発送準備方法についてのメモを元に、ねじやボルト・ナット等の個包装や箱詰めの軽作業について取り組む。説明を聞いて必要な情報をメモとして追記できるようにするために、数や仕分けのポイントになる事柄を段階的に更新する計画にした。その際、業者のパターンごとに写真付きで手順を示したタブレット端末のスケジュールアプリ「アシストガイド」を用意しておき、必要に応じて手書きメモ、デジタルメモの両方が使えるようにしておいた。

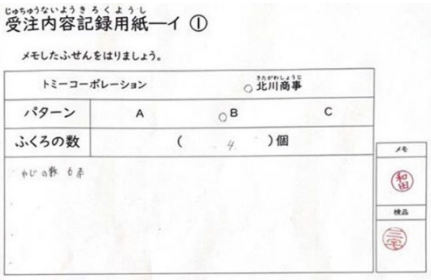
トミーコーポレーション	パターン	ふくろ	とじ方
ねじの長さ（　　）	A		
色（　　）	B		
本数（　　）	C		

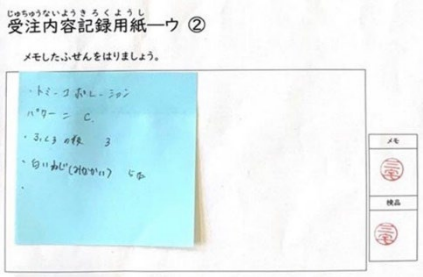
北川商事	パターン	ふくろ	とじ方
ねじの長さ（　　）	A		
色（　　）	B		
本数（　　）	C		

架空業者の製品分類パターン表

「アシストガイド」業者別製品パターン手順の例







担当する業者の製品パターンをメモするための手書きメモ用紙

イ．対象生徒の事後の変化

取り組み初期のメモの取り方については、指導者が伝える会社名やパターンの数量などを白紙の用紙に薄く小さな字で書き留めていたが、作業中に見返しにくそうにしており、作業効率が上がっていなかった。受注内容記録用紙①を使用すると共に、「アシストガイド」の業者パターン手順表を見ることで、作業内容の見通しがもてるようになり、作業スピードが向上し、正確に製品を作ることができた。単元の後半は製品分類パターン表を確認するために必要な情報をメモ書き（受注内容記録用紙―ウ②）し、それを見ながら作業ができ、「アシストガイド」の手順表を見なくても作業を進められるようになった。

② （Ⅰ）-② 校外学習のスケジュール管理、道順の確認

「アシストガイド」　「Google マップ」

ア．活動の具体的内容

使用アプリ：「アシストガイド」、「Google マップ」

実施時期：７月上旬、週５時間の生活単元学習

校外学習のしおりとして、スケジュールアプリ「アシストガイド」を用い、校外学習の予定をカレンダーに入力し、一日の日程の見通しをもちやすくした。また、丸亀駅から丸亀城まで徒歩で移動する際の道順を、「Google マップ」のストリートビュー機能を使って確認した後、確認時にスクリーンショットで撮影した曲がり角や店の置物、アーケードの様子などの目印の画像を、「アシストガイド」の「行きかた」の項目に挿入した。

イ．対象生徒の事後の変化

「アシストガイド」の入力の仕方をいち早く覚え、指導者が日程の項目をテレビに提示すると即座に入力し始めた。アプリの画面上に表示される項目やチェック項目などの試行なども行っており、アプリの特性を調べていた。一通り入力できると、カレンダーの項目を自分なりの表現にアレンジをしていたが、予定の項目を聞かれると、正しい項目で答えることができた。

③ （Ⅰ）-③ レジ対応

ア．活動の具体的内容

使用アプリ：「Google スプレッドシート」

実施時期：11 月下旬、総合的な探究の時間

学校祭「ふれあい祭り」の高等部で実施した模擬店「まうんてんぴーち」のレジ係として、金銭の受け渡しとタブレット端末のアプリでお釣りの計算や会計処理を行った。会計の手順は、事前に受け付けていた注文票の内容が入力された「Google スプレッドシート」のリストから、注文票に書かれた受付番号と同じ番号を選び、会計の金額を確認してお客様に伝え、購入金額や釣銭の金額をセルに表示された金額と間違いがないか確認してから受け渡しをすることとした。

イ．対象生徒の事後の変化

直接金銭の受け渡しをする担当になるため、担当の時間帯はレジ係としての業務に専念することができた。笑顔での対応は十分とはいえなかったが、受け応えや金銭の受け渡しなど、レジ係としての対応は十分にできていた。

（2）【望ましい人間関係】

① （2）-① 他の生徒の示範として

ア．具体的内容

活動の具体的内容

使用アプリ：「アシストガイド」、「Google マップ」

「アシストガイド」　「Google マップ」

実施時期：7 月上旬、週５時間の生活単元学習

校外学習のしおりとして、スケジュールアプリ「アシストガイド」を用い、校外学習の予定をカレンダーに予定を入力する際、入力が終わっても周囲の生徒の入力に時間がかかっているときに、時間を持て余してしまうことが予想されるため、指導者が提示するスライドと合わせて、本生徒のタブレット端末をテレビに提示し、他の生徒の示範となる。

イ．対象生徒の事後の変化

指導者の補助役として、タブレット端末の操作や正しい入力の見本となる役割をもつことで、周囲の生徒のスピードを意識して作業を進めることができた。自分のタイミングで次の予定に進もうとした時も、まだ入力しきれていない生徒がいることを指導者が伝えたり、生徒のつぶやきを聞いたりすることで、元の項目に戻って提示することができた。慣れや空間を捉える力が必要な「Google マップ」の操作では、指導者が提示した画像を見て的確な操作を行って、同じ構図になるようにスクリーンショットを撮ることができた。合わせて、教室前方の教卓で立位でタブレット端末を操作することで、姿勢の崩れや私語の予防につなげることができた。

② （２）-② 指導者的役割

ア．具体的内容

活動の具体的内容

使用アプリ：「アシストガイド」

実施時期：９月上旬、週２時間の総合的な探究の時間

「アシストガイド」

高等部１、３年生合同で香川大学へ作業販売に行く日程確認の授業で、「アシストガイド」のカレンダーに日程を入力する際に、同じ作業班で入力作業が苦手な１年生のサポート役として入力の補助をした。

イ．対象生徒の事後の変化

１年生に入力の仕方が分かるようにするための配慮が多く見られた。１年生に自分のタブレット端末が見やすくなるようにタブレット端末を並べて置いたり、入力する項目の位置や平仮名入力の文字を指さしたりする他、１年生の集中力が切れそうになると、「もう少しで終わりだよ。」と言葉掛けしたり、入力し終えると「オッケー。いいよ。」と称賛の言葉掛けすることができた。また、作業班ごとに分かれて入力作業をすることで、教室でいつも話をしている生徒と離れることができたため、私語をする機会が減った。

（３）【自己理解と表出】

① （３）-① 伝わりやすい表現

ア．具体的内容

活動の具体的内容

使用アプリ：「Keynote」

実施時期：１月上旬、生活単元学習

「Keynote」

冬休み中の楽しかった思い出を発表するために、冬休み中に楽しかったことをスマートフォンやタブレット端末で撮影しておき、３学期の生活単元学習の授業で発表する課題に取り組んだ。

イ．対象生徒の事後の変化

夏休みの課題では、スマートフォンで撮影した数枚の写真を見せていたが、冬休みの課題発表では、自主的に Keynote のスライドに写真を貼り付け、補足の文字も入れて見ている人にも分かりやすくなるように工夫していた。自分が面白いと感じたエピソードを聞いている人も面白く感じるように伝えることができた。Instagram や X などの SNS を日常的に利用しており、写真の加工や文字やスタンプの追加を行うことで、見た人の印象に残るような工夫をしていることが、今回の発表につながったと考えられる。

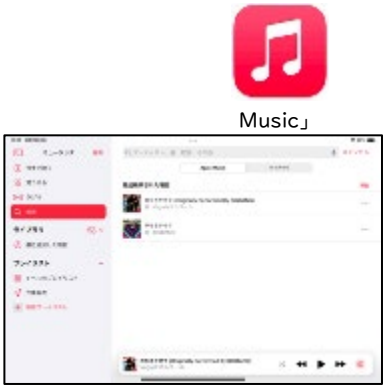
② （３）-② 居心地の良さの共有

ア．具体的内容

活動の具体的内容

使用アプリ：「Apple Music」

実施時期：１月上旬、週２時間の総合的な探究の時間



１月に入って、香川大学での作業販売の学習に対する意欲が下がった状況ではあったが、接客部でのグループ活動中、本生徒から「店が静かすぎるから、何か曲かけよう。」という呟きがあった。本生徒からの提案を接客部で採用し、高等部全体に販売中の BGM 候補曲を募集した。曲の候補は「Apple ミュージック」の中から選ぶ事とした。

イ．対象生徒の事後の変化

「 Apple ミュージック」候補曲を検索しながらも、本生徒の中で候補曲の目星は付いていたようで、タブレット端末で目的の曲を検索すると、接客部の生徒や指導者に聞かせており、その後、その曲を応募した。募集期間が終わった時点で、応募曲の大半が店の雰囲気に合わないものだったため、本生徒が応募した曲が BGM に採用され、総合的な探究の時間の授業内で発表された。採用されたことが分かると、ぶっきらぼうな態度をとりながらも嬉しそうな表情を見せていた。歌詞入りの曲だったため、オルゴールバージョンでの採用になったが、販売練習の際に模擬店で BGM が流れ始めると、「そうそう、こんな感じやって。」と指導者に話した。この一件から、活動に少しずつ参加するようになり始めた。

③ （３）-③ 先生方へのメッセージビデオ

ア．具体的内容

活動の具体的内容

使用アプリ：「Word」「InShot」

実施時期：１月下旬～2 月上旬

「InShot」「Apple

「InShot」

「お世話になった先生方に卒業生からメッセージ動画を作りたいので、生徒と先生が一緒に写っている写真を提供してほしい。」と本生徒から相談を持ち掛けられた。例年は色紙を作っていたが、生徒一人一人が書いた各先生方へのコメントを集めて、写真とコメントをスライドショー形式の動画にし、視聴してもらうようにしたいとのことだったので、高等部３年生の同意が得られてから実施する事とした。

イ．対象生徒の事後の変化

タブレット端末の Word で生徒用のメッセージ記載用紙を作成した上で、高等部３年の生徒に趣旨の説明をし、同意を得ることができた。事前に依頼のあった写真の件についても、同意を得た後、改めて写真提供の依頼を申し出ることができた。

学級には、体調不良で休みが続いている生徒がおり、その生徒にもメッセージビデオの趣旨の説明をしてほしいと

担任に依頼することができた。後日その生徒に趣旨を説明したところ、本生徒から好きな色をたずねるメッセージがあったことを知らされた。メッセージビデオの完成に向けて、積極的に行動している様子がうかがわれた。

【報告者の気づきとエビデンス】

1. 課題の難易度設定が上手くできると、主体的に取り組める機会が増えたのではないか。

　高等部の中でも障害の程度が軽度であるため、周囲の生徒と同程度の課題だと簡単すぎると感じてしまいがちで、活動に面白さを感じにくい状況が続いていることが、本生徒の学習意欲の低下につながることが感じられた。指導者のサポート役としてサブティーチャー的な役割や、本生徒の興味関心のあることにちなんだ課題設定をして指導者的な役割を担当させることで、本生徒の実態に合った課題設定に近づくように感じた。

2. 本生徒の「好き」を活かすことで、自分ごととして捉えられたのではないか。

　本生徒は、自分の気持ちに非常に正直な面があるため、少しでも嫌だと感じたことに対しては学習意欲が上がりにくい。反面、関心のあることや自分がやりたいと思ったことについては、積極的に取り組み、こちらの想像以上のことまでやることもあった。特に、お世話になった先生へのメッセージビデオの制作については、指導者からの提案やアドバイスもなく自主的に取った行動だった。ツールについても、日常的に SNS に投稿するために使用しているアプリを使用することで、制作の見通しがもちやすく自分でどんどん作業を進められると想定していると感じられた。主体的な取り組みを引き出すためには、興味関心のあることを中心に据えることが重要であると改めて感じた。

3. 障害特性を自分も周囲の人も知っていくために、支援者の力を活用する必要があるのではないか。

　これまで「理由はわからないけど、なんか嫌。」「気持ち悪い。」と思っていたことが、傾向を捉えることで本生徒の障害特性として捉えることができるようになり始めた。自分から伝えられるまでには至っていないが、担任や高等部の指導者が伝達することで、本生徒や保護者、実習先に伝えることで、障害特性の共通理解を深めることができた。卒業後は、学校が引き続き伝達できる部分もあるが、主には本生徒や保護者と就業先の企業、障害者就業・生活支援センター等の関係機関に移行してくため、本生徒に関する周知事項に障害特性や対応の仕方について明記しておく必要がある。

・その他エピソード（画像などを含めて）

〈エピソード１〉

　本校高等部では、年に一度カヌー教室が実施される。その事前学習として、プールでカヌーに乗る体験を行った際、自ら水中でのカヌーの移動補助を申し出て、他の生徒の移動補助を行い、自分の体験はせずにその日の授業を終えた。カヌー教室当日は、一人乗りカヌーに乗りはしたものの、桟橋付近で少し乗った程度ですぐに上がっていた。

　本生徒の言動から、ほとんど経験のないカヌーに乗っていて、もし沈んでしまって周りの友達や先生に見られてしまったら恥ずかしい、という思いがあったため、乗ろうとしなかったと見られた。苦手なことや不安なことを周囲に悟られたくない心理が働いていたと考えられた。

〈エピソード２〉

　後期現場実習の事前指導の中で、実習先から「前期の３倍は頑張ってほしい。」との要望があったこと

を聞いた際、非常にショックを受けた様子で、その後、授業態度が悪くなり、消極的な発言が増加した。本生徒が話せるような状態になって、前期はアパレルの仕事を好きになってほしかったため、あえて合格ラインを低めに設定し、後期ではそこから実際の採用に向けてレベルアップしたラインで本生徒の実力を見極めたいという実習先の意図を伝えると、「人を試すようなことをしてほしくない。」「前期の時に言ってほしかった。」「初めからその評価基準で評価してほしかった。」と話していた。期待の表れだと伝えるも、不満そうな表情は継続していた。

本生徒なりに前期実習を精一杯頑張っていたが、それ以上のことを求められていると感じ、対応できるか不安になったことが、今回の言動につながったと考えられる。

〈エピソード３〉

後期現場実習中、本生徒はシャツの袖やズボンの裾を捲り上げたスタイルで実習の業務に当たることが多かった。また、お客様への挨拶や視線については、巡回指導の指導者、実習先の店長やスタッフ、保護者から、積極的に実行するよう繰り返し伝えられていたが、十分にできるまでには至らなかった。実習終了後の報告会で、本生徒、保護者と進路指導主事との面談で、挨拶や視線については、分かっていてもなかなかできない状況であったことを、本生徒の障害特性として会社には理解していただけるよう説明はするが、しなくても良いということではないことを伝えた。また、袖や裾の捲り上げについては、これまでの洋服に対するこだわりや避けてきた服の傾向を挙げ、本生徒の皮膚感覚の特異性が理由の一つとして考えられることを伝えた。保護者も「言われてみれば。」と、服装と感覚の特異性について初めて関連性を意識したようだった。初対面の人との挨拶や視線の向き、感覚の特異性については、これからもついて回ることであると理解しておく必要があると伝えた。また、実習先については、進路指導主事を通して、本生徒の特性として職場の負担にならない範囲で、障害特性の受け入れと対応、対応可能なラインを本人に伝えていただけるよう伝えた。

〈エピソード４〉

学校祭「ふれあい祭り」での高等部で実施した模擬店「まうんてんぴーち」の販売を終えて、12 月から総合的な探究の時間の学習内容が第２回香川大学作業販売に移行し、「お客様に喜ばれる店作り」をテーマにして、高等部全体を販売部、会計部、宣伝部、接客部、制作部の５つのグループに分けて活動に取り組んだ。本生徒は希望して接客部を選択し、接客部の部長として、同じ接客部の生徒や指導者と一緒に相談しながら、どんなことができるか、お客様が喜んでくれることはどんなことかなど、本生徒なりに部長として部員の意見をまとめたり、指導者からの提案を部員に伝えたりする役目を担っていた。12 月末の時点では、第２回香川大学作業販売は２月の寒い時期なので、温かいコーヒーを提供するという大まかな業務内容が決まり、冬休みに入った。本生徒はコーヒーの匂いが苦手ではあるが、受け入れているように見えた。

１月２６日に行われた研究発表会で、第２回香川大学作業販売の事前学習を公開することになっていたため、指導者側で学習指導案に記載する内容として、接客部の業務内容の詳細や人員配置を決定していた。1 月最初の総合的な探究の時間の授業の中で、決定事項を伝え、その役割分担でコーヒーを淹れる練習を始めたところから活動意欲が下がり、不平や不満、消極的な言動が増え、活動に参加しなかったり、教室から出て行ったりするなどの行動が見られるようになった。

12 月末までは接客部の生徒と指導者とで相談しながら決めていた状況から、指導者に勝手に決められた形になってしまったことが、不満を引き起こすきっかけになったと考えられる。また、苦手なコーヒーの匂いに実際に触れることになったのも不満の要因として強く印象付けられたと考えられる。

〈エピソード５〉

２月５日の香川大学での作業販売では、接客部としてお客様に出すコーヒーを用意したり、席に案内したりする役割を担当した。当日は、気温が下がったこともあり、上着のフードをかぶり、両手をポケットに入れて様子を見ることが多かった。積極的にお客様に関わろうとはしなかったものの、道具の準備や片付けの際には作業に加わり、活動に参加することができた。

【終わりに】

見通しをもつことができれば、安定して課題に取り組むことができることや、感覚の過敏さや視線の向きなどの障害特性に関すること、関心のあることには前向きに取り組めることなど、今回の取り組みを通して、本生徒の特性をつかみ直すことができた。そこで得られた障害特性に関する情報や対応策を整理し、適切な支援を行うことで、時折不安定になるときはあるが、現在は、卒業を控えて学校生活のまとめの学習に取り組んでいる。

また、学校で整理することができた本生徒の障害特性や対応の仕方について、実習先と情報共有をしながら、前期・後期の２回の実習に取り組んだ。本生徒の障害特性に合わせた作業内容の提供や、指示・指導をしていただくことで、本生徒の力が十分に発揮できる実習となった。

挨拶や視線の向きに課題が残るものの、本生徒の障害特性に理解を示していただいた上で、作業の正確性や応用力など、実習での実績を評価していただき、卒業後は、本生徒が希望するアパレル系の企業への就労が内定している。就職後も、本生徒の障害特性に合わせた対応の継続は必要であるが、好きなファッションアイテムに囲まれた環境で業務に当たりながら、進路先の企業で重視している３つのポイント（お客様第一、向上心、チームワーク）を実践していく中で、求められる人材へと成長していくことに期待している。

魔法のプロジェクト　FY２３　活動報告書

報告者氏名：三宅　泰治　　所属：香川大学教育学部附属特別支援学校　　記録日：2024年　2月　27日
キーワード：不登校支援、進路指導

【対象生徒の情報】
・学年：高等部３年　N男
・障害名：知的障害
・障害と困難の内容
　中度～軽度の知的障害がある。高等部２年生から、体調不良で欠席が増え始め、高等部３年生となった今年度は、５月頃から欠席が増え、７月からほとんど登校できていない状態が続いている。欠席の主な理由は、発熱や頭痛などの体調不良である。今年度は、進路を決める前期・後期の現場実習があり、実習には参加しようという気持ちはあったものの、登校を意識すると発熱や頭痛で登校できないことが続いたため、進路決定に向けての取り組みにも遅れが出ている。

【活動目的】
・当初のねらい
　対象生徒が不登校のため、直接的な指導の機会が制限される中、継続して取り組める方法で、本生徒の体調や行動、気持ちの状態などを把握したり、主体的な活動の経験を積み上げたりして、卒業後の進路決定につなげられるような支援を継続する。

（４）【生活習慣の確立】
　一日中自宅で過ごすため、就寝や起床時刻、一日の行動や体調、気分などを記録し、生活リズムを整えられるようにする。

（５）【屋外活動の促進】
　自宅の中にこもりがちになるため、一日に一度は屋外に出る機会を設けられるようにする。

（６）【労働意欲の醸成】
　誰かの役に立つ役割を担うことで、就労するための意識を育てる。

（７）【学校や支援者とのつながりの形成】
　学校や支援者とのつながりを意識できる関わり方を確立する。

・実施期間
　2023年５月～2024年２月
・実施者
　三宅　泰治
・実施者と対象生徒の関係
　対象生徒の担任

【活動内容と対象生徒の変化】
　対象生徒の事前の状況
・　身辺処理は自立しており、自転車、保護者送迎で通学している。
・　作業的な内容の学習では、自分の役割を理解して取り組むことができる。困ったときや分からないことがあったときは、指導者にその都度質問することができる。

・　作業手順などを早い段階で理解し、自分で効率を考えて作業したり、道具を使ったりすることができる。手先が器用で、細かな作業も丁寧に取り組むことができる。
・　自分用のスマートフォンを所有しており、SNS や動画視聴、動画作成等で日常的に使用している。
・　まじめな性格で、指示され自分に任された役割や仕事は、最後までやり遂げようとする気持ちが強いが、その意識が強くなり過ぎると、頭痛や発熱等の身体症状が現れるため、学校や実習を休んでしまうことがある。
・　卒業後の進路として、就労継続Ａ型事業所を希望している。
・　情緒面、心理面とも落ち着いているが、主に家庭で上手くいかないことがあると、不適切な発言をすることがある。同学年の友達から嫌なことを言われたことがきっかけで、学校を休みがちになり、頭痛や発熱などの体調不良で欠席することが多く、現在も体調不良で欠席が継続している。部活動にも参加していたが、学校を休むようになってからは休部状態である。
・　中学３年の弟が一人おり、本生徒と同じように学校を休みがちの傾向にある。

・活動の具体的内容

3.　実施時期と主な活動内容

時期	主な活動内容
５月	出席日数　２日/19 日 教室に入れないため、別室にて前期現場実習に向けての事前学習を行った。
６月	出席日数　７日/21 日 前期現場実習　９日（６月１日、５日～14 日）　就労継続Ａ型事業所 発熱、頭痛等の体調不良が続き欠席が続いたため、業務内容を老人介護施設のフロア清掃から洗濯業務等に変更し、時間を大幅に短縮した。 前期現場実習の実績 6/ １（木）10:00～17:00　フロア清掃 6/ ８（木）10:00～12:00　洗濯物たたみ 6/13（火）10:00～12:00　洗濯物たたみ、シーツ交換 6/14（水）10:00～12:00　洗濯物たたみ
７月	出席日数　１日/８日 体調不良が続き、感染症罹患のため、登校ができないまま夏季休業に入った。 夏季休業中の学級課題：令和５年度夏休みの記録**〈エピソード１〉**
８月	
９月	出席日数　１日/20 日 （１）【生活習慣の確立】**「一日の行動記録」**の提案 9/13（水）夏休みの記録に準ずる形式で、一日の行動記録のアンケート実施の確認をした。
10 月	出席日数　１日/21 日 後期現場実習（10 月 12 日～11 月２日）　→　実施なし 前期現場実習で体調不良による欠席が半数以上あり、後期現場実習までの十分な登校実績も十分ではなかったため、本生徒の体調不安を鑑み、実習を見送ることとした。

	（2）【屋外活動の促進】**「今日の一枚」**の提案 10/5（木）実習は見送ることにしたが、来るべき実習に向けて、毎日できる課題の実施を継続することが、行動の実績を証明するものと捉えることができた。継続して実施できている「一日の行動記録」に加え、屋外に出て取り組むことができる課題として、屋外で撮影した写真を、カレンダー共有アプリに投稿する「今日の一枚」の課題を提案し、実施の確認をした。 （3）【勤労意欲の醸成】**「今日の手伝い」**の提案 10/20（金）母から、他の生徒は実習中だと思うが、本生徒は家でごろごろしてばかりで目に余るとの相談の電話がある。「一日の行動記録」「今日の一枚」の課題に継続して取り組めていたので、洗濯物干しや風呂洗い、洗い物等、本生徒ができることで、母に喜ばれる家庭の手伝いを課題とし、実施した手伝いに関する事象を撮影し、カレンダー共有アプリに投稿する「今日の手伝い」の課題を提案し、実施の確認をした。
11月	出席日数　0日/20日 11/21（火）発熱　「今日の一枚」「今日の手伝い」の投稿が停止する。
12月	出席日数　0日/16日 12/6（水）担任の投稿から、「今日の一枚」「今日の手伝い」の投稿が再開する。 12/15（金）、20（水）、22（金）放課後に登校する。卒業文集の下書きの課題、香川大学作業販売でお客様に配布するミサンガの制作課題の実施と配布をした。
1月	出席日数　3日/17日 1/15（月）特別実習事前打ち合わせ 1/29（月）特別実習面接、福祉サービス利用に関する認定調査 1/31（水）特別実習1日目**〈エピソード2〉** 特別実習の実施について 就労継続B型事業所　10:00～12:30　計6日　送迎あり 1/31（水）、2/7（水）、2/13（火）、2/14（水）、2/20（火）、2/21（水） 本生徒のこれまでの登校実績や体調への配慮から、前半は実習日の間隔を空け、後半は二日続けた計6回の計画とした。
2月	出席日数　6日/19日 2/7（水）特別実習2日目**〈エピソード3〉** 2/8（木）特別実習の進め方と進路先決定に関する意思確認**〈エピソード4〉** 2/13（火）特別実習3日目 2/14（水）特別実習4日目 2/20（火）特別実習5日目 2/21（水）特別実習6日目

4.　実践活動

（1）【生活習慣の確立】

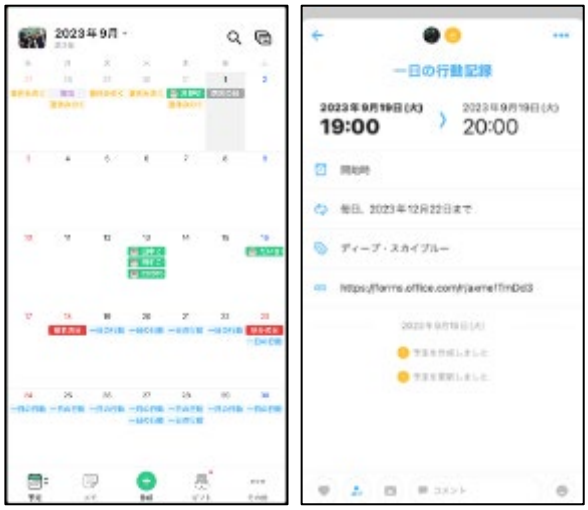
「一日の行動記録」

ア．活動の具体的内容

使用アプリ：「Microsoft Forms」「Time Tree」

「Microsoft Forms」　「Time Tree」

実施時期：9月19日（火）～



体調不良や登校に気持ちが向かないことが続いていたため、家庭でできる課題として、夏休み中に取り組んだ夏季休業中の行動記録である「夏休みの記録」を本生徒用にアレンジして、「一日の行動記録」として取り組むこととした。

また、アンケートの実施を周知するツールとして、これまで長期休業中の行動記録のアンケートフォームにアクセスする入口として使用し慣れているカレンダー共有アプリ「Time Tree」を使用した。

予定の設定で、毎日19時になるとスマートフォンにアラームと通知が表示されるように設定しておき、通知を開くとアンケートフォームの URL が表示されるようにすることで、アクセスしやすくした。

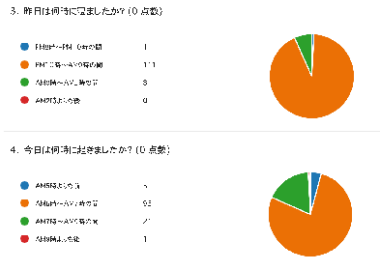
アンケートの記載内容は以下の項目とした。

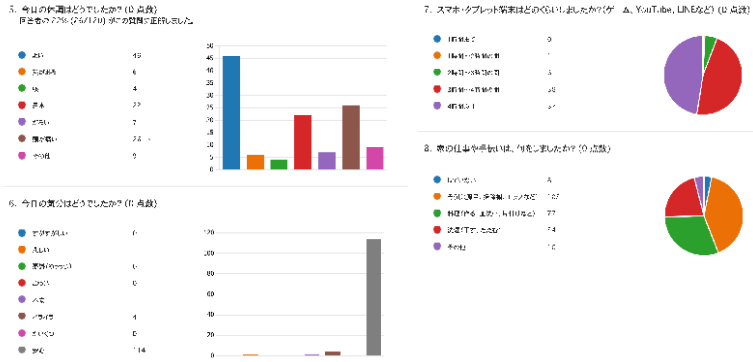
1	自分の名前を選びましょう。
2	今日の日付を選びましょう。
3	昨日は何時に寝ましたか？ PM8時～PM10時の間・PM10時～AM0時の間・AM0時～AM2時の間・AM2時よりも後
4	今日は何時に起きましたか？ AM5時よりも前・AM5時～AM7時の間・AM7時～AM9時の間・AM9時よりも後
5	今日の体調はどうでしたか？ よい・熱がある・咳・鼻水・だるい・頭が痛い・その他
6	今日の気分はどうですか？ すがすがしい・悲しい・憂鬱（ゆううつ）・こわい・不安・イライラ・たいくつ・安心
7	スマホ・タブレット端末はどのくらいしましたか？（ゲーム、YouTube、LINE など） 1時間まで・1時間～2時間の間・2時間～3時間の間・3時間～4時間の間・4時間以上
8	家の手伝いは、何をしましたか？ していない・そうじ（風呂、掃除機、モップなど）・料理（作る、皿洗い、片付けなど）・洗濯（干す、たたむ）・その他

9	体を動かしましたか？ ストレッチ・散歩・ラジオ体操・筋トレ・YouTube でダンス・していない・その他
10	今日の日記を一言

イ．対象生徒の事後の変化

アンケートの記入を提案し、「Time Tree」に予定が入った日から、本生徒のスマートフォンに通知が入るようになり、その日から入力するようになった。夏季休業中の入力同様、欠かすことなく毎日続けることができた。





（２）【屋外活動の促進】

「今日の一枚」

(ア) 活動の具体的内容

使用アプリ：「Time Tree」

実施時期：10 月５日（木）～

本生徒との相談の結果、体調や気持ちが安定しないため、後期現場実習の実施を見送ることとしたが、生活リズムを安定させたり屋外での活動を定期的にしたりしていた方が今後実施する実習の備えになることを本生徒と確認した。

「Time Tree」

９月に始めた「一日の行動記録」の課題には継続して取り組むことができていたが、家の中に閉じこもりがちになっていたので、一日に一度は家の外に出る機会を持つことができるように、屋外に出て写真を撮影し、カレンダーアプリで担任と共有する「今日の一枚」の課題を実施した。

写真の撮影を課題に選定した理由として、以前登校した際に取り組んだ、過去に訪れたことのある印象的だった場所をランキング形式でまとめる課題で、スマートフォンで撮影していた景色の写真をたくさん使用しており、対象となるものや景色、構図など、本人なりのこだわりが感じられる写真ばかりで、撮影した時の様子や被写体のことについて嬉しそうに話していたことから、写真を撮ることを課題に取り入れると意欲的に取り組めるのではないかと考えた。

また、課題の実施を周知するツールとして、「一日の行動記録」で使用していたカレンダー共有アプリ「Time Tree」を使用した。

予定の設定で、毎日 15 時になるとスマートフォンにアラームと通知が表示されるように設定しておき、屋外で撮影した写真を、予定のコメント欄に投稿することとした。

(イ) 対象生徒の事後の変化

登校できたタイミングで、「今日の一枚」の趣旨について理解し、投稿の仕方について説明を聞くと、すぐに投稿の仕方を覚えることができた。また、自宅に帰ると早速課題に取り組み、写真を投稿することができた。登校できず自宅で過ごす日が続いても、自宅から出て撮影した写真を投稿することができた。投稿する写真は、主に花や植物、空や雲、海や山などが多く、時折、母と出かけた先で撮影した景色の写真などを投稿することができた。

また、被写体の植物の名前が分からない時には、検索アプリで名前を調べたり、撮影場所や状況を詳しく説明するコメントも合わせて投稿したりすることもあり、間接的ではあるが、状況の詳細を伝えようとする意思が感じられた。

（3）【勤労意欲の醸成】

「今日の手伝い」

(ア) 活動の具体的内容

使用アプリ：「Time Tree」

「Time Tree」

実施時期：10 月 22 日（日）～

10 月 20 日（金）、母から一日中ごろごろして過ごしているのが気になるとの相談があった。この時期、他のクラスメイトは後期現場実習中で、急には変わらないとは理解しつつも、この状態がいつまで続くのかという心配があるとのことだった。

本生徒はこれまで取り組んでいた「一日の行動記録」「今日の一枚」の課題を継続できており、本生徒が強く負担に感じないものであれば、課題を追加しても対応できるのではないかと考えた。

これまでの課題は、自分に関わることや自分の関心のあることについての課題であったため、新たに追加する課題は、自宅でもできる、人の役に立つこと、勤労意欲を育てることにつながるものを想定した。母との相談の中で、本生徒がしている家の仕事や手伝いについて確認すると、洗い物や洗濯物干などはしてくれることがあるとの回答だったので、「今日の手伝い（お母さんが助かるお手伝いをしよう）」という手伝いの課題を提案することにした。

課題の実施を周知するツールとして、「一日の行動記録」「今日の一枚」で使用していたカレンダー共有アプリ「Time Tree」を使用した。

予定の設定で、毎日 10 時になるとスマートフォンにアラームと通知が表示されるように設定しておき、実施した手伝いの成果を撮影した写真を、予定のコメント欄に投稿することとし

た。

(イ) 対象生徒の事後の変化

登校ができない状況が続いていたため、新たな課題についての説明は電話連絡で行った。

自宅での手伝いは、お母さんが助かること、ありがたいと思ってもらえることであることを伝え、人に役立つことをしていくことが、将来実施する予定の現場実習や就労につながることを確認し、課題の提案に同意した。

課題の手続きや投稿の仕方については、カレンダー共有アプリを使用するこれまでの課題と共通する方法だったため、スムーズに取り組み始めることができた。登校できず自宅で過ごす日が続いても、投稿予定の 10 時過ぎには、手伝いの成果を撮影した写真を投稿することができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

1. 障害特性に合わせた手続きの明確化が、本生徒の行動の選択につながったのではないか。

本生徒は、自分の状態を適切に捉えたり、求められていることが何かを判断して考えをまとめ、相手に伝えたり、行動したりすることが苦手である。しかし、具体的に提示された活動や選択肢の中から自分に当てはまるものを選ぶこと、指定された時刻に間に合うように行動することなどは、比較的取り組みやすく、見通しをもちやすくなるような障害特性をもっている。

今回取り組んだ３つの課題はどれも、スマートフォンのカレンダー共有アプリの通知によって、毎日決まった時刻に決まった課題に取り組むことができた。また、自分の体調や気持ちの状態を知るために、選択肢の中から当てはまるものを選ぶアンケートフォームの形式を使用することによって、顔を合わすことはできなくても、適切な状態を選択して毎日欠かすことなく指導者に伝えることができた。

今回の取り組みを通して、日々の自分の体調がどうなのかを把握するとともに、指導者とも共有できたことで、指導者も状態を確認しながら、どのように対応していくかについて考える材料を蓄積することができた。また、毎日続けたことが本生徒の自信につながったとともに、本生徒の取り組みの実績を証明することができたので、進路先との情報交換の際にもプラスとなる情報を伝えることができた。

不登校状態の生徒の体調や気持ちの状態を、指導者が適切に把握することは容易ではないが、テクノロジーを活用することで、直接顔を合わす機会がもちにくい状況でも指導が継続でき、進路指導にもつなげることができると感じた。

2. 選択肢の想起を助ける具体的な経験を積むことが、主体的な行動につながるのではないか。

今回の取り組みの中で、具体的な選択肢を提示したり、課題に取り組む時刻を決めたりするなど、選択肢やスケジュールをはっきりさせることで、取り組みやすくなり、継続につながった。反面、〈エピソード３〉の特別実習２日目、頭痛で仕事が十分にできないと感じたとき、本生徒の選択肢は「仕事に行く」か「仕事を休む」の２つしかなく、頭痛がひどくなって仕事に支障が出ることを心配して、休むことを選択しようとした。しかし、本生徒の想定していなかった「挨拶だけして帰る」という選択肢が提示されたことで、本生徒は新たな選択肢を選び、特別実習２日目は欠勤にならなかった。

また、〈エピソード４〉のように、「体調に合わせて無理はしなくて良い。」「休憩は適宜とってよい。」など本生徒に取って想像しにくい表現の提案をされていた。そこで、体調に合わせた仕事の仕方の種類にどのようなパターンがあるのか、体調に合わせた休憩の取り方はどのようなパターンがあるのかなど、具体的なパターンを例示した。また、体調が良くない状態を想定して、例示されたパターンの中から、このパターンで休憩してみるなど、仕事や休憩のパターンをそれぞれ体験しておくことで、複数の選択肢が自分のものとなり、実際に体調が良くない時にその中から自分に合う選択肢を選ぶことにつながると感じた。今回の実習だけでも、選択肢が少しずつ増えていったが、今後は更に選択肢が増えていくことが予想されるので、その都度体験して選択肢を増やしていくことが望まれる。

・エピソード（画像などを含めて）

〈エピソード１〉

高等部では、数年前から夏季休業中や冬季休業中の一日の行動記録の課題を、Microsoft Forms で作成したアンケートフォームに記入し送信する方法で実施している。カレンダー共有アプリ「Time Tree」に登録されたその日のアンケートフォームに、就寝時刻や起床時刻、体調、スマホやタブレット端末の利用時間、手伝い、運動、その日の一言を記入することとしている。本生徒も高等部入学後、長期休暇中は「Time Tree」からフォームを選択して、行動記録を記入し送信することが習慣化していた。7月、夏季休業中の課題の確認を十分に行えないまま休業が始まったが、アンケートの課題を自主的に行い、毎日欠かすことなく送信することができた。

〈エピソード２〉

カレンダー共有アプリを使った３つの課題を継続して行いながらも、いよいよ卒業が目前に迫ってきた１月中旬、指導者から卒業後の生活の場を想定した特別実習の提案を受け入れ、実施に向けて調整をすることになった。実習は就労継続Ｂ型事業所となったが、前期現場実習を実施した事業所内ということで、本生徒の実態を理解している事業所であることや、手先の器用さを活かした仕事ができること、体調に合わせて休憩や勤務時間を調整することも可能であることを伝えると、本生徒も納得して実習に参加する意向を示した。

実習は午前中の２時間半の軽作業で、１月31日（水）の特別実習初日は、意欲的に作業に取り組み、時間いっぱい作業をして終えることができた。

〈エピソード３〉

２月７日（水）特別実習２日目の８時ごろ、熱はないが前日から頭痛があり、実習に行ったら頭痛がひどくなるといけないので実習を休みたいと話していると、保護者から連絡があった。指導者、部主事、進路指導主事と協議し、仕事はせずに実習先に顔を見せに行って挨拶するだけでも行ってみることも含めて選択肢を提案した。挨拶だけならできそうだと指導者からの提案を受け入れ実習先に向かい、担当者に「仕事はしたいのですが、頭が痛いので今日は休みます。」と伝えて早退し、自宅に戻った。

帰宅してから本人の気持ちを聞くと、「実習に行きたくないわけではないが、頭が痛いのでどうしようと言う気持ちだった。実習先に行って、直接支援員さんの顔を見て挨拶ができたので安心できた。挨拶だけしに行くと言う選択肢はなかったので、これでも良いのであれば、熱はないが体調が悪い時に、今日みたいにできるといいかもしれないと思う。」と話していた。

「実習に行ったら、仕事はきちんとしないといけない。」という本人の真面目な性格が、プレッシャー

につながっているかもしれないと感じた。

〈エピソード４〉

２月８日（木）、本人、保護者が登校し、今後の特別実習の参加の仕方や進路先についての意思決定を行った。実習については、７日の体調の具合に合わせて、挨拶だけして、仕事をしないで帰るという、体調に合わせた対応を実際にしてみての感想を聞いた。今まで考えたことがなかったが、熱はなくても体調が良くない時にこのような対応だとやりやすいと話していた。

事業所からは、「体調に合わせて無理はしなくて良いですからね。休憩も必要なら適宜取ってください。」と伝えられており、本生徒もそのことは分かったと話しているが、仕事ができそうな体調のときでも、途中で休憩を取っても良いことや、休憩時間の長さを調整ができること、職場に行ったけど仕事に向かえない時は、仕事場以外の場所で過ごすことも可能であることなど、いろいろなパターンがあることを指導者から具体的に伝えた。

２月 13 日（火）実習３日目、前日の行動記録は体調良好で、本人とのメッセージでも、体調は良く翌日の実習にも行けそうとあった。当日も、10 分前には送迎場所で待機していた。業務開始前、休憩できる場所について、本人からもスタッフに直接質問することができた。作業中に休憩場所で休憩しながら作業を進めることができた。

14 日（水）実習４日目は、天気も良く暖かかったので、休憩の時に屋外で気分転換するのも選択肢として良いのではと提案していると、休憩の際「外に行ってきます。」と言って屋外での休憩を選択した。

【終わりに】

一日の行動記録の送信や、屋外で撮影した写真の投稿、手伝いの写真の投稿など、自分ができることを毎日こつこつ積み重ねる経験を通して、学校への登校や継続した実習の参加は難しかったが、継続して課題に取り組むことができると感じさせることができた。自分のやってきたことを分かってくれる人がいることや家族のために手伝いをしてきたこと、そこで得られた達成感が自信となり、６日間設定した特別実習を最後までやり遂げることができた。

２月 15 日（木）、16 日（金）には、高等部３年生の研修旅行があった。本生徒は参加を見送る判断をしたが、実習に前向きに取り組めていることが自信となっていたようで、ビデオ通話で参加できる時は様子を見てみないかという、指導者からの提案を受け入れることができた。カレンダー共有アプリで活動の様子を撮影した写真を共有しながら、ビデオ通話の URL も共有し、研修旅行中にビデオ通話を数回行うことができ、画面越しではあるが、クラスメイトと顔を合わせて会話することができた。研修旅行までに、本生徒が卒業後の進路を決めるための特別実習に取り組んでいることはクラスメイトに伝えており、また、本生徒も実習に継続して取り組むことができていたことで、「実習頑張ってね。」「うん、頑張るわ。」といった会話が交わされることもあった。

特別実習に継続して取り組むことができ、研修旅行で間接的に顔を合わせたことが、本生徒の更なる自信となった。卒業証書授与式では全員が揃って式場で卒業証書を授与されることを願うとともに、卒業後も、自分なりのペースで仕事が続けられることを願っている。